

下記の日程にて集中講座を開催いたします。本講座は、“大学院共通科目 放射線科学 —その基礎理論と応用—”の一部です。講義と実習を各1日実施します。本講座を受講し、かつ放射線科学の単位を取得した者については、筑波大学放射線取扱初心者講習会の実習が免除されます。興味のある大学院生は是非受講してください。

第1日目（講義） 平成30年5月17日（木） 10:00～16:30

場 所：アイソトープ環境動態研究センター・アイソトープ棟 講義室

内 容：

10:00～13:00 「放射線災害への対応と災害時の役割」

福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座

大葉 隆 助教

本講義では放射線の分類、単位の話など放射線の基礎知識をベースとして、過去の原子力災害（スリーマイルアイランド原子力発電所事故、チェルノブイリ原子力発電所事故、福島第一原子力発電所事故など）の事故のポイントをひも解く。そして、過去の放射線災害の教訓から、放射線災害時の被ばく線量のレベルや放射線防護の方法、そして、職種によるその災害時の役割などを通して、放射線災害時に起こり得る事象を理解する。

13:30～16:30 「医療放射線の基礎知識とリスクコミュニケーション」

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科

竹井泰孝 准教授

医療放射線検査には病気の診断や治療につながるというベネフィットと共に、被ばくによる放射線傷害のリスクが存在します。通常の放射線検査でリスクが生じることはありませんが、過度に医療被ばくを恐れて必要な検査を拒否する方もおられ、医療放射線のリスクとベネフィットが正しく判断されていない現状もあります。本講義では医療における放射線利用や被ばくによる人体影響、リスクを正しく伝えるために必要なコミュニケーションスキルについて解説します。

第2日目（実習） 平成30年5月25日（金） 9:00～17:00

場 所：アイソトープ環境動態研究センター・アイソトープ棟 講義室

内 容：実際に放射線量の測定や汚染検査を行い、放射線や放射性同位元素に対する理解を深めます。以下の実習2テーマを各半日で実施します。

（テーマ1） ガンマ線による被ばく線量と被ばく線量率の測定

（テーマ2） 表面汚染の検査と除去



問い合わせ先：アイソトープ総合センター

古川 純 (furukawa@ri-center.tsukuba.ac.jp)

TWINS 履修登録期間：4月18日（水）～5月8日（火）